

<本復旧工事について>

片側一方通行の早期解消のため、今年度は先行して A 区画（別添「案内図」参照）を施工します。なお、B 区画及び C 区画については、次年度以降の施工に向け、並行して準備を進めていきます。

<A 区画の施工について>

当該斜面の地質調査及び設計業務の結果を踏まえ、以下の 4 つの施工を考えています。

（落石防護柵工 + ポケット式落石防護網工 + モルタル吹付工 + 斜面上部の伐採）

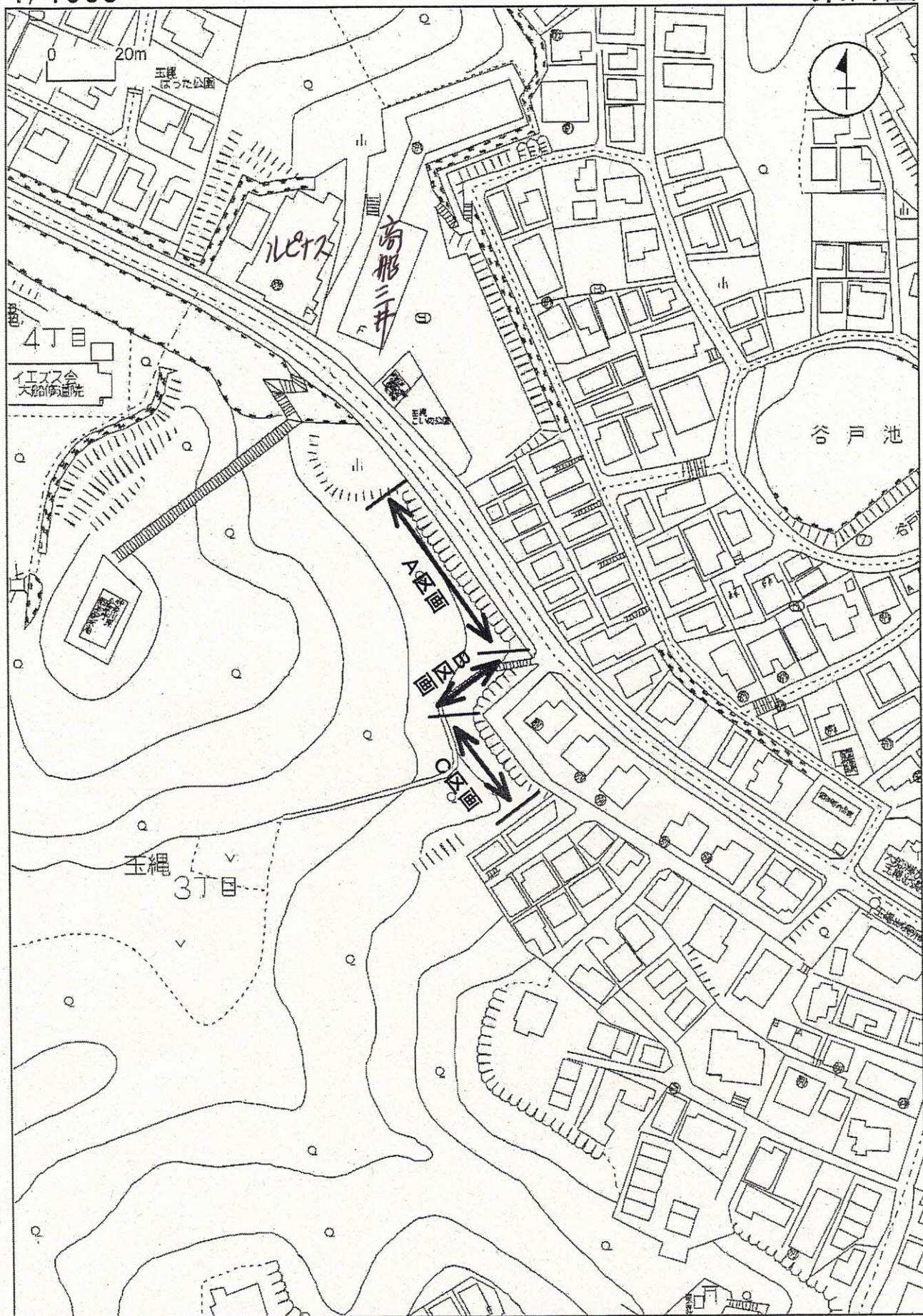
- 1 当該斜面下部の既設防護柵が設置されていない箇所に、鋼管型の落石防護柵を設置します。
- 2 将来的に当該斜面上部からの土砂崩落や倒木があったとしても、安全が確保できるよう、当該斜面にポケット式落石防護網を設置します。
- 3 当該斜面の不安定土塊の除去及び整形を行い、岩盤露出部にモルタル吹付を行います。
- 4 当該斜面上部の樹木の伐採を行います。

<その他>

施工後は、定期的に樹木の伐採や落石防護柵背後等に堆積した土石や枝葉の撤去を行います。

1/1500

案内図



地図データ © 2018 ZENRIN CO., LTD. (Z18JF第029号及び第030号)

種別	落石防護柵工+ポケット式落石防護網工+モルタル吹付工+斜面上部の伐採	
写 真 イメージ	<p>ポケット式落石防護網工 + モルタル吹付工</p> <p>落石防護柵工</p> <p>防護柵</p> <p>ポケット式落石防護網工の構造説明図</p> <p>防護柵</p>	
工 法 概 要	<p>①ポケット式落石防護網工</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金網高さ:10m ・延長:40m ・金網:3.2 φ, 50mm×50mm, 耐候性 <p>②落石防護柵工 ($H=2.0m$, $L=24.0m$)</p> <p>鋼管型落石防護柵(既設防護柵工が設置されていない区間に設置)</p> <p>③モルタル吹付工</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩盤露出部に施工 <p>④斜面上部の伐採</p>	
安 全 性	<p>崩落した土砂は防護金網の内側にとどめて安全に下方まで落下させることができ。さらに土砂等の堆積による防護網末端の突出等に対しても落石防護柵で防護できるので、安全性は高い。</p>	(◎)
景 觀	<p>金網が主な構造であるため、背景が透過できる。</p>	(◎)
維 持 管 理	<p>金網やワイヤーロープの交換は容易であるが、支柱の交換には重機が必要となる。 落石防護柵背後等に堆積した土石や枝葉の撤去が必要。</p>	(◎)
評 価	<p>現状にほとんど手を加えずに、安全性を最も高めることができ費用対効果が高い。 工数が少なく、工期が最も短く、施工性にも比較的優れている。</p>	(◎)